

令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>【考察】1の一人一人の児童生徒の尊重について、「4」「3」の評価は児童・教職員とも9割を超えているが、保護者については昨年度より約15%低下した。2の道徳・心の教育の充実について、教職員については8割を超えているが、保護者については昨年度より低下した。今年度は道徳科で、保護者・教職員・児童にアンケートを実施し、学校の重点内容項目を設定し授業に取り組んだ。今後は更に学校全体で親子道徳に取り組み、授業での子どもの学びの様子、日頃の子どもの関わりの様子等の保護者への啓発を、より積極的に行う等の具体的取組が必要である。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>【考察】3の授業力向上について、児童の「4」「3」の割合は昨年度とほぼ変わらないが、保護者は14%低下している。4のタブレット端末活用については、児童の「4」「3」の割合が昨年度より16%上昇した。今年度はICTを効果的に活用した授業研究について校内研修で取り組んだこともあり、児童の授業でのタブレット活用の場面は広がった。今後はICT活用と児童の学びを状況、学力面での関係について成果を検証し、子どもの学力向上により効果的なICT活用法について更に研究を深め、その過程や成果を保護者に積極的に啓発していく必要がある。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>【考察】5の学校の支援体制について、教職員の「4」「3」の割合は昨年度より3%上昇しているが、保護者は23%低下し、24%の保護者が「わからない」と答えている。6の共生社会を担う人材の育成については、児童、教職員の「4」「3」の割合は90%を超え昨年度とほぼ変わらないが、保護者については27%低下し、29%の保護者が「わからない」と回答している。今後も特別支援コーディネータを中心として個に応じた支援体制の構築に取り組みながら、更にその取組の様子や意義について保護者と共有し、保護者の声をより真摯に受け止めながら特別支援教育の推進をより充実させていく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>【考察】7の安全と事故防止について、「4」「3」と回答した児童の割合は昨年度より5%上昇しているが、教職員は低下した。保護者は13%がわからないと回答している。8の家庭や地域との連携協力については、昨年度と同様、教職員は連携・協力しながら教育活動を進めていると考えているが、保護者の学校への思いとの差が大きい。学校安全教育活動について更に教職員で見直しを図り、保護者や地域と連携しながら安全と事故防止への意識を高める取組を行う等の具体的な対策を講じる必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

9 あいさつ	10 自他の尊重
子どもたちは、あいさつをすすんで行っていると思いますか。	子どもは、じぶんをたいせつにしていますか。
<p>【考察】9のあいさつは、保護者、児童は昨年度と同様の傾向であるが、教職員は「4」「3」の割合が飛躍的に向上した。今年度は児童の委員会活動を中心に相手より先にあいさつする取組を行ったこともあり、進んで挨拶できる児童が増加した。10 自他の尊重については、保護者、児童は昨年度とほぼ同様で、特に教職員の「4」「3」の割合が17%上昇した。子ども達が日頃の学校生活を振り返り、あいさつをはじめ身近な諸問題に自ら気づき、改善策を考え、行動する活動を積極的に取り入れていく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

11 自他の尊重	
子どもたちは、お友だちをたいせつにしていると思いますか。	
<p>【考察】11の自他の尊重については、保護者、児童、教職員とも昨年度とほぼ同様の状況であり、三者とも「4」「3」の割合が90%を超えている。自分を大切にすることだけでなく、周囲の友達も同じように尊重することの大切さを、日々の教育活動全般を通して意識し、行動させていくことが今後も必要である。</p>	

来年度の具体的な取組について

○①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応について、道徳科の授業を中心に本校の重点内容項目を意識した実践を行い、学校での学びを実生活の中で生かせる「生きて働く道徳性」の育成を目指していきたい。更に学校での取組を保護者や地域に積極的に発信し、子どもの学びを教職員、保護者、地域と連携しながら、学びの質を高めていく。

○②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進について、ICT機器のより効果的な活用について更に研修を深めていくと同時に、子どもの学力との関連について検証を行う。熊本市学力調査の結果を分析し、子どもが自ら学びとる学校教育の目指し、自ら学びを進める授業変革に取り組み、自ら学び続ける子どもの育成を目指す。また保護者への情報発信を積極的に行い、家庭と連携して子どもの教育を考えていく体制を構築していく。

○③教員が子どもと向き合うための体制の整備について、教職員間でのICTを活用した情報共有を密に行い、個々の児童の状況や保護者の思いを踏まえた個別最適な学びが提供できるような、きめ細やかな支援体制をつくってきたい。

○④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進について、自助と共助の心を育むより実践的な避難訓練や安全教育を推進し、保護者、地域と連携し子どもを取り巻く環境の安全を確保できるようにする。更に学校の教育方針や教育目標、学校の取組について、学校だよりや学校Hp、学校安心メールや児童用タブレットを通じて、より分かりやすく発信し丁寧な説明を心がける。更にたくにし応援団を中心にした託麻西小エコシステムの充実を、更に継続して進めていきたい。

学校関係者評価

○「こどもひなんの家」に関しては、これまでPTAの方に看板設置・管理をお願いしていたが、PTA解散に伴い看板を外し返却された。子どもの安全を守るために、今後子どもが登下校中に危険な事に遭遇した時に、安心して助けを求められるような場所を、学校として考えていくべきであるとの指摘を受けた。次年度に向けて、保護者・地域の方にも協力をお願いして、「こどもひなんの家」に代わるものを早急に検討していきたい。